



納税をすべし

大田区立馬込中学校 二年 中尾 文

私と私の家族は税金で暮らしています。正確にはすべて税金ではないですが、両親ともに公務員なので家の中にあるものの殆どは税金で買ったと言えます。私のお小遣いも、電気やガス、エアコンだって見ず知らずの人たちが税金を払ってくれるから使えるとも捉えることができるのです。この事実は去年の夏休みの宿題で税金について調べている時に、公務員は集められた税金から給料が出ていること、自分の両親の職業が公務員に当てはまることを知って気づきました。この気づきをきっかけに社会人になってもしっかりと納税しようと思えるようになりました。

一方で、納税を良く思わない人は沢山います。中には税金なんていらな気にもかからず、生活も困窮していなければ、税金の恩恵をつける機会が少なく不平等に感じてしまう気持ちも理解できます。私も消費税が八パーセントから十パーセントに増税されたときは二パーセント増えたにも関わらず、あまり周りの生活が変化しなかったため、ただ損をしたただけのよう感じてしまっていました。

しかし、私達の他にも税金で生活している人たちは沢山います。公務員にも色々種類があり、調べてみると、総理大臣を始めとする議員、役所の

役員や警察官、消防士、学校職員、病院や福祉施設の職員、上下水道や清掃、ごみ処理をする人たちなど沢山の職種が挙げられています。それらの人たちは、国や地域を良くするために働いて、対価として税金から出されたお給料をもらって生活しています。私達や彼らにとって税金はとても大切なものなのです。

ではどうすれば、より多くの人に快く納税してもらえるのでしょうか。私は、税金がどのようなことに使われているか、しっかりと具体的に示すことが重要だと思います。徴収という制度は七百年の大宝律令のときから今までずっと続いてきました。無くならなかったのは、どの時代でも社会を回すのに必要不可欠なものだったからだだと思います。単に「社会保障費」「防衛費」「災害対策費」などと大きくくりでまとめてしまうのではなく、どのくらいのお金を何にかけたのか、誰のためなのか、どういった効果があるのか、詳しく提示することで、国民も安心して納税することができると思います。また、集めた税金を正しく使うことも大切だと思います。必要とされているところを把握するには、国民の意見をもっと取り入れられる仕組みが必要だと思います。

税金は人々が安心、安全に暮らすために、なくてはならないものです。きれいな水が飲める、平等に教育を受けられるという当たり前のことが税金があって成り立っていることを、沢山の人が知ってもらいたいです。そして、当たり前なことが誰かにとっては特別にならないように、税金が使われてほしいです。